

長沼町IoT推進ラボ

事業の内容

事業目的・概要

- 町所有の未利用の職員住宅、教員住宅をIoTを活用した宿泊施設にリノベーションし、地理的優位性を生かしたインバウンド、サイクリスト、ライダーなどといった多様な宿泊客を確保し、観光入込客数、宿泊客数の拡充を目指します。

重要業績評価指標（KPI）

- 未利用施設をリノベーションしたIoT活用宿泊施設の改修・運用開始
- 2020年までに2棟、2023年までに5棟

今後の展開

- 宿泊施設の拡充による宿泊客の増加を図りながら、将来的にはIoTを活用したキャッシュレス+多言語対応店舗の拡大を見据え、グリーン・ツーリズム事業のノウハウをベースに、インバウンドのニーズへも対応し、集客力の強化を進めます。
- 本町は、国道274号、国道337号が交差する交通の要衝であり、サイクリストやライダーといったツーリング客の宿泊需要を的確につかみ、宿泊客数の確保を図ります。

事務局

- 長沼町

参加プレイヤー

- 一般社団法人ながめま
- (株)北海道銀行
- 合同会社マスケン
- ミサワホーム北海道(株)
- (株)ミサワホーム総合研究所

事業イメージ

地域資源をキーにした交流人口創出推進ラボ

- ✓ 長沼町とのまちづくり協定
- ✓ 住宅のスペシャリスト
- ✓ まちづくりのノウハウ
- ✓ 決済システム導入・運用支援
- ✓ 事業者マッチング
- ✓ ビジネスモデル確立支援

ミサワホームグループ

金融機関

サポート体制

サポート体制

市場分析データ

市場分析データ

【リノベーション宿泊施設】
○IoT活用スマートロック
○スマートフォンアプリで予約管理
○IoT活用で生産する
長沼特有の大豆商品提供

【町内の商工業者】
○IoT活用でキャッシュレス
+多言語対応店舗の拡大
を図る

事業環境整備

事業主体

長沼町（関係部局）

（社）ながめま、マスケン

- ✓ 宿泊施設物件提供
- ✓ タンチョウも住めるまちづくり
- ✓ グリーン・ツーリズムのノウハウ
- ✓ 宿泊施設改修
- ✓ 宿泊運営
- ✓ まちづくり事業

事務局（長沼町政策推進課）

- ✓ 事業企画、物件情報提供、案件発掘